

平成20年度 商工施策について要望活動

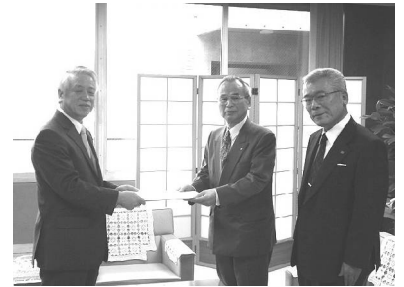
当所においては、一段と厳しい経営環境の下にある地場企業について政経一体となって経営安定と活性化を図るため、昨年12月28日に正副会頭が揃って市役所を訪問し、「平成20年度商工施策について」の要望書を上西会頭から齋藤市長に手渡した。

要望書の内容は、10部会で議論した意見・要望を常議員会で取りまとめたもので、①地場中小企業の振興、②商店街・小売商業の振興、③貿易と観光の振興、④都市基盤の整備、⑤政経一体のまちづくりの5項目について22要望が明記されており、正副会頭から「やる気と能力を持ち挑戦する経営者が頑張れるビジネス環境を整備するために、地域経済を支えているのは中小企業であるとの認識の上に立って新年度予算の編成にぜひ反映させてほしい」旨を申し入れ、市長からは「要望内容については、出来る限り予算査定の中で反映させ

ていきたい」との力強い発言があった。

また、京都府への要望活動については、瀬川専務理事が1月7日に京都府中丹広域振興局を訪ね、山田知事と竹内中丹広域振興局長あての市と同じ内容の要望書を永井農林商工部長に手渡した。

専務理事からの「補助金だけでなく、指導・協働など金銭を伴わない支援についてもよろしく。特に、現場レベルでの実質的協議をお願いしたい」旨の発言に対し、農林商工部長からは「地域の再生・振興のためには、出来るだけ要望趣旨を踏まえて商工部門だけでなく全庁的に対応したい」旨の発言があった。



正副会頭が揃って要望

京都府知事と京都府商工会議所連合会との懇談会

京都府商工会議所連合会と京都府知事との懇談会が、1月10日に京都市内のホテルで開催され、当所からは上西会頭と瀬川専務理事が出席した。

京都府からは山田知事と山下商工部長、田中次長のほか商工総務室長・金融組合室長・商業室長らが、また府内の8商工会議所の会頭・専務理事らが出席した。

懇談会では、府連の立石会長が「京都の活性化を図るためには、地域再生と中小企業振興が必要。今後とも府と商工会議所が連携・協力して取り組む」と挨拶し、これに答えて山田知事から「京都の潜在力を最大限活かすために、ハード面では、京都舞鶴港から府南部までの南北軸の道路整備を促進し、国土軸である東西軸と連携することで面的活力を高める。また、ソフト面では、産学公の連携や観光産業・健康産業・ものづくり分野の取

り組みなどの推進を図ることによって府内の産業全体を活性化する。企業誘致では、舞鶴のダイワボウ跡地の活用も大事」などの発言があった。

この後、府内の会頭から各々の地域の課題・要望などについて発言があり、山田知事との間で活発な意見交換が行われた。

当所の上西会頭は、京都舞鶴港の有効活用や臨港道路の早期完成、府港湾事務所の拡充、前島埠頭の利・活用、府道・小倉西舞鶴線の整備促進などについて発言した。

最後に、山田知事から「お聞きしたことを全て一度にやるというのは難しいが、府・市・町と地元経済界がこれまで以上に連携を深めて、より良い方向に無駄なく効果的に取り組みたい」とのまとめ発言があり、有意義のうちに懇談会を終えた。

海上自衛隊練習艦隊舞鶴寄港

春を呼ぶ恒例の海上自衛隊練習艦隊（司令官井上力海将補、4艦、乗員約860名・内幹部候補生190名）が去る2月17日～20日の間舞鶴に寄港した。17日午前9時、当所会頭や自衛隊支援団体代表者他支援者多数が北吸岸壁に入港を出迎え、浅井副市長が歓迎の言葉を述べられた他、花束や記念品を練習艦隊に贈呈した。夜には、幹部候補生全員を迎えての入港歓迎会の開催や、期間中、歓迎横断幕の展張、商店や飲食店に歓迎ビラを掲示し入港を歓迎した。

当所では、例年、入港歓迎会において、会頭から練習艦隊司令官に「日本人形」を寄託し、遠洋練習航海寄港先で国際親善に役立てていただいております。今年も上西会頭から井上司令官に寄託された。



井上司令官に寄託

* 昨年寄託の日本人形は、マレーシアセランゴール州のスルタン（スルタンとは地方の王）に寄贈された。